

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【那賀振興局】重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】
～那賀いちご若手コミュニティ運営会議を開催～

令和7年7月号

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. ユーカリの産地調査を実施	
2. クビアカツヤカミキリの初動防疫を徹底	
II 那賀振興局	2
1. 重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～那賀いちご若手コミュニティ運営会議を開催～	
2. クビアカツヤカミキリ対策を周知	
III 伊都振興局	3
1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会果樹コース（摘果・品質対策）の開催～	
2. 高野山麓精進野菜 夏野菜の目揃え会の開催	
IV 有田振興局	4-5
1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催	
2. クビアカツヤカミキリの定点調査を実施	
3. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催	
V 日高振興局	6
1. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】 ～「南高」摘心＋カットバック処理樹の収穫後摘心処理を実施～	
2. 美浜町松葉堆肥品質調査と混合作業を実施	
VI 西牟婁振興局	7
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入 推進による産地維持】～ウメ摘心＋カットバック処理実証園で夏季摘 心処理を実施～	
2. クビアカツヤカミキリ現地研修会を実施	
VII 東牟婁振興局	8-9
1-1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地 づくり】～みくまの産地協議会がAGR Iわかやま就農相談フェア に出展～	
1-2. ～那智勝浦町苺生産組合が第55回総会及び研修会を開催～	
2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催	

Ⅷ 農林大学校就農支援センター

10

1. 令和7年度第1回A G R Iわかやま就農相談フェアを開催

Ⅸ 経営支援課

11

1. 普及指導員資格試験に向けた研修を実施
2. 新任普及職員研修を実施

I 海草振興局

1. ユーカリの産地調査を実施

令和7年7月25日、JAわかやまがみね地域枝物研究会（会長：山田隆英氏）は、ユーカリの栽培技術向上を図るため、研究会員5名と関係者（JAわかやま、経営支援課、振興局）3名の計8名が参加して大阪府中部農と緑の総合事務所農の普及課瓜生主査案内のもと、大阪府八尾市にある株式会社ウエダ花卉（代表：植田竹治氏）を訪問し、産地調査を行った。植田氏からは、栽培時の注意点などの説明を受け、参加者は、剪定のタイミングや防除についてなど積極的に質問を行っていた。

得られた技術や情報を会員各々が今後の生産に反映させ、研究会で検討を加えながらレベルアップを目指していく。



ほ場見学



植田氏の作業場にて質問する参加者

2. クビアカツヤカミキリの初動防疫を徹底

海草振興局管内では令和3年からクビアカツヤカミキリの被害が確認されており、令和7年7月1日初めて紀美野町でも発生が確認された。クビアカツヤカミキリは繁殖・拡散力が高く、「早期発見・早期駆除」に努め、手に負えなくなる前に対策を行うことが重要である。そのため、その日のうちに付近の成虫を捕殺するとともに樹体内の幼虫捕殺と飛散防止ネットの設置を行い、翌日に被害樹（すもも）を伐採した。

令和7年7月7日に振興局、紀美野町、JA、海南保健所の職員で周辺のバラ科果樹やさくらの悉皆調査を実施した結果、新たな被害樹は無かった。その他、農業水産振興課では、紀美野町全戸へのチラシによる啓発を実施し、地域一体となったクビアカツヤカミキリの被害防止対策に取り組んでいる。



被害樹の幼虫の掘り取りと捕殺した成虫



ネットによる成虫飛散防止

Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～那賀いちご若手コミュニティ運営会議を開催～

農業水産振興課では、いちごの若手生産者の仲間づくりや栽培技術等の情報交換ができる場として、令和6年7月に「那賀いちご若手コミュニティ（以下、コミュニティ）」を立ち上げた。勉強会の開催の他、令和7年度からはいちごの栽培技術情報誌「那賀いちご通信」を定期的に発行する等の支援を行っている。メンバー数は順調に増加しており、研修生から就農5年目までの20名が参加している。

7月18日に農業水産振興課がコミュニティ運営会議を開催し、メンバー10名、関係機関4名の出席があった。運営会議では、令和6年作の振り返りの他、令和7年度の活動計画について話し合った。令和6年作は厳しい気象条件であったが、メンバーの多くが目標収量を達成しており、手ごたえを感じているようであった。令和7年度の活動計画については、農薬について勉強会をしたいという意見が最も多く、開催に向けて準備を進める。



活動計画を提案するメンバー

2. クビアカツヤカミキリ対策を周知

7月24日、農業水産振興課は、J Aわかやま紀の里地域本部が主催する新規就農者等を対象にした農業塾において、クビアカツヤカミキリの現状と対策について講義を行った。

野菜栽培に取り組む方がほとんどであることから、ももやすももへの被害に加え、公園などのさくらへの影響についても説明を行った。クビアカツヤカミキリ防除対策は産地を守るだけでなく、地域の景観保全にもつながることから、積極的な協力をお願いした。

受講者の中には、クビアカツヤカミキリの存在を初めて知る方もいたことから、関係機関と連携し、今後も講習会などを通じて継続的に周知を図っていきたい。



講義風景

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会果樹コース（摘果・品質対策）の開催～

7月1日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上のため、果樹（かき）の栽培講習会を開催し、7名が受講した。

今回は、かき栽培における摘果等の品質管理について講習会を実施した。

はじめに、津田普及指導員から摘果や枝管理、かん水等の夏場の管理技術について講義し、続いて浅井普及指導員からカメムシ類の生態や防除方法について講義した。

講義終了後、九度山町内の園地に移動し、津田、浅井両普及指導員からかきの摘果方法について説明を行った後、県育成品種「紀州てまり」の栽培上の注意点も説明した。受講生からは、摘果すべき果実の判断基準や主枝から発生した徒長枝の管理、日焼け対策に関する質問があった。



座学の様子



現地研修の様子

2. 高野山麓精進野菜 夏野菜の目揃え会の開催

伊都地域では、高野山麓農産物産地化協議会（橋本市（事務局）、橋本市農業委員会、JAわかやま、農業者、農産物販売業者、伊都振興局 等）が地元野菜に栽培基準を設け、「高野山麓精進野菜」としてブランド化に取り組んでいる。

7月16日、橋本市教育文化会館4階において「高野山麓精進野菜 夏野菜の目揃え会」が開催され、生産者及び関係者あわせて約20名が出席した。昨年度の夏野菜の販売基準を基に、出荷規格、選別基準を協議した。また、新たに「豆類」の基準についても話し合った。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。



目揃え会の様子

Ⅳ 有田振興局

1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催

7月1日、有田川町のJAわかやま山椒集出荷貯蔵施設において有田農業技術者会の総会を開催した。本会は、有田地方の農業の発展、地域振興に寄与することを目的として農業水産振興課普及グループ、果樹試験場、JAわかやまありだ地域本部、農業共済、土地改良区、近畿大学附属農場、有田中央高校の農業関係機関から構成（会員数64名）されている。

総会では、令和6年度の事業報告、会計報告に加え、令和7年度の事業計画案、予算案、新役員案が承認された。また、会長にJAわかやまの大嶋氏、副会長に当課の桑原普及指導員が選任された。

研修会は、有田川町清水地域のぶどう山椒をテーマとして実施し、有田川町清水行政局長中谷芳尚氏および果樹試験場岩本副主査研究員に講演を行っていただいた。その後、中谷氏の案内のもと、清水地域のぶどう山椒圃場を見学した。



総会の様子



ぶどう山椒圃場の見学

2. クビアカツヤカミキリの定点調査を実施

有田振興局管内では、令和6年にクビアカツヤカミキリを確認して以来、果樹園地や公園等で、被害樹の発見が相次いでいる。令和7年6月末までの被害樹の累積確認数は、湯浅町で1地点16本、広川町で1地点6本、有田川町で1地点4本となっている。

7月3日から7月16日までの期間で、農業水産振興課と各市町役場、JAの各営農センターによる果樹類の定点調査を実施し、林務課によるさくらの定点調査と合わせて管内の被害の現状把握を行った。有田川町金屋地区で22地点、有田川町吉備地区で14地点、広川町で6地点、湯浅町で4地点、さくらで5地点の計52地点を調査し、新たにさくらで1本の被害樹を発見した。

注意喚起を徹底するため、管内市町やJAに対するチラシ配布を行った他、寄せられた通報も併せてクビアカツヤカミキリの防除啓発に努めている。



新たに発見された被害樹(さくら)

3. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催

有田川町の御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合的な学習の授業で温州みかんの学習を行っている。

7月2日、3年生69名の1回目の学習として、みかんの摘果の授業を行った。

授業では、大橋普及指導員がみかんの栽培管理及び日本農業遺産について座学を行った後、有田川町の地域農業士である玉置泰伸氏指導のもと、学校近隣の園地で摘果体験を行った。

児童から「みかんの樹の株元のほうまで潜り込んで摘果するのは大変だった」、「密集しすぎているみかんを摘果するときはどれにするか選ぶのが難しかった」等の感想が聞かれた。

座学での質問タイムでは、「どうしてみかんに傷がつくのか」、「どんな虫がみかんにとって害虫なのか」等、多数の質問が寄せられ、玉置氏がそれぞれの質問に対し、丁寧に回答した。

10月に同じ園地で収穫体験も予定している。



大橋普及指導員によるみかんの授業



玉置氏による摘果作業の説明

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】

～「南高」摘心+カットバック処理樹の収穫後摘心処理を実施～

農業水産振興課は、うめ「南高」の省力かつ着果安定技術の普及を目的として取り組んでいる、摘心+カットバック処理展示ほの摘心処理を7月8日に日高川町松瀬で実施した。

従来の摘心+カットバック処理では4月中下旬と5月中下旬の2回、「南高」新梢に対して、電動バリカン等を用いて、摘心処理を行う必要があるが、現場では5月下旬はうめ収穫準備等の作業が多く、摘心処理を行う時間を確保できないとの声があった。そこで、作業時間の分散を図るため、本年度から5月中下旬の摘心処理の代替として、収穫後の摘心処理を実施した。

農家からは「バリカンで収穫前の果実を落とすことを心配せずに作業ができる」「収穫後であれば2回目の摘心処理を実施できると思う」という声があった。一方で、「うめの収穫後は気温が非常に高く、実際に作業してみるとかえって負担が大きく感じる」との意見もあり、作業への負担が新たな課題として発生した。今後はうめ研究所とも協力し、作業性も含めて、2回目の摘心処理の最適な時期の検討を進める予定である。



「南高」収穫後の摘心処理の様子

2. 美浜町松葉堆肥品質調査と混合作業を実施

美浜町には日本名松百選にも選ばれた「煙樹ヶ浜の松林」がある。しかし、生活様式の変化により利用されなくなった松葉が堆積し、松の生育にも影響を及ぼすなど問題となっている。そこで、煙樹ヶ浜松葉堆肥ブランド研究会（構成員：松葉堆肥使用農家、美浜町、日高振興局）は、松葉を堆肥として活用する取組を行っている。

2月から堆積、発酵させていた松葉堆肥について、7月16日に美浜町役場職員とともに品質調査を行った。その結果、腐熟判別基準、発芽試験及び伸長試験のいずれも基準値内で良好であった。

7月24日には、地域の農業者、美浜町役場、JAわかやま紀州地域本部及び日高振興局の職員が参集し、松葉堆肥中の不純物を除去した後、別の場所で発酵させていたモミガラと混ぜ合わせ、より質の高い堆肥へと仕上げた。農業者からは「今年は不純物も少なく、良い堆肥ができた」

「現時点では温度が高いため、畑に投入する適切な時期を慎重に判断したい」との感想があった。今後は、さらに発酵を進めたうえで農業者に配布され、特産のきゅうりやいちご、トマトの栽培に施用される予定である。



今年の松葉堆肥の様子



松葉堆肥混合作業の様子

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～ウメ摘心+カットバック処理実証園で夏季摘心処理を実施～

農業水産振興課では、うめ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心+カットバック処理実証園で、電動バリカン使用による夏季の摘心処理を6月19日に田辺市下三栖、7月1日に上富田町岡で実施した。

春季の摘心処理により徒長枝の発生本数は慣行樹の半分程度に減少するが、さらに徒長枝の発生を極力少なくし枝梢管理作業を大幅に省力化することを目的に、収穫後、夏季摘心処理として春季処理後に伸長した新梢を電動バリカンによりせん除した。

18年生及び19年生樹一樹当たりの処理に要した時間は、春季処理とほぼ同様に7～10分を要した。また、せん除した枝の重量は一樹当たり3～5kgと少量であった。

今後は、せん除時に地面に落下放置した枝の様子や秋季の徒長枝発生程度と樹勢の確認を行うとともに、夏季の摘心処理の有無による秋季せん定作業に要する時間、せん除した枝重量の調査を行い、一連の枝梢管理労力の大幅な軽減に向けた技術の確立を目指す。



営農指導員と共に夏季バリカン処理

2. クビアカツヤカミキリ現地研修会を実施

クビアカツヤカミキリに関する知識を深め被害発生時の対応を学ぶために、JAや各市町等の関係機関で構成する西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：西牟婁振興局農業水産振興課）は、7月11日、大阪府羽曳野市、河内長野市で現地研修会を実施した。

うめ研究所の情報提供から、さくらでのクビアカツヤカミキリの被害樹の多い、大阪府羽曳野市、河内長野市の施設・公園を選定し研修を行った。現場では、クビアカツヤカミキリの成虫の生息状況を見学したほか、実際に成虫を捕まえる実習を行った。また、ブラックライトを利用した卵の早期発見技術についても実践した。

参加者からは、「標本やフラスは何度か確認する機会があったが、実際に成虫の生息状況を確認し、より強い警戒が必要と感じた」との意見があった。

クビアカツヤカミキリの被害が近隣地域に迫っているため、今後も関係機関と連携し、早期発見・早期防除対策に努める。



クビアカツヤカミキリ成虫の生息状況の確認

VII 東牟婁振興局

重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】

1-1. ～みくまの産地協議会がA G R Iわかやま就農相談フェアに出展～

7月12日、A G R Iわかやま就農相談フェアが和歌山県J Aビルで開催された。出展したみくまの産地協議会（構成員：J Aわかやまみくまの地域本部、くろしお苺生産販売組合、那智勝浦町、新宮市）のブースに1組1名の相談者が訪れた。

この相談者に対し、橋本主査が当地域の特徴、県や町による補助事業について説明をした。さらに、J Aわかやまみくまの地域本部の政所副部長、笹平営農指導員は当地域で営農する際のメリット、デメリットを説明した。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、J Aトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。



相談の様子

1-2. ～那智勝浦町苺生産組合が第55回総会及び研修会を開催～

7月25日、那智勝浦町宇久井の休暇村南紀勝浦において、那智勝浦町苺生産組合（会長：松出真紀氏）の第55回総会及び研修会が開催された。

当日は会員10名と来賓、関係者が出席した。松出会長による挨拶、和歌山県農業協同組合みくまの地域本部向井本部長の祝辞の後、表彰式では、販売額等が優秀であった会員に対し賞状が授与された。

総会では令和6年度事業報告、令和7年度事業計画（案）、役員改選などが承認された。新会長には畑下由美氏が選任された。総会終了後、県農業試験場栽培部の田中寿弥氏から「イチゴの花芽分化について」という課題で研修会が開催された。田中主査研究員からは、花芽分化の条件や高温による花芽分化の遅延対策について説明があった。



賞状の授与



研修会

2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

7月3日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）は、総会及び現地研修会を開催した。くろしお熊野やさいグループ（生産者）、市場関係者、JAわかやま職員、市町職員、農業水産振興課併せて13名の出席があった。

総会では、冒頭に小田会長から「地場産青果物の取扱量は、年々減少している。当協議会関係機関が連携して、安定供給を目指したい。また、出前授業や収穫体験を行い、地産地消を推進し、地元野菜の認知を高めていきたい」と挨拶があった。令和6年度事業報告、収支決算、令和7年度事業計画について審議され、すべて承認された。

現地研修会として、なす、オクラ、スイートコーンの栽培ほ場に移動し、当課の高垣技師から、地域の栽培の現状や概要について説明した。その後、栽培方法等について参加者と栽培者間で質疑応答があった。



総会（新宮広域圏公設地方卸売市場）



栽培検討会（オクラほ場、新宮市）

Ⅷ 農林大学校就農支援センター

1. 令和7年度第1回AGRIわかやま就農相談フェアを開催

7月12日、和歌山県JAビル（和歌山市）で第1回AGRIわかやま就農相談フェアを開催した。本フェアは平成19年度からスタートし今回が60回目で、これまで1,037名の方が来場された。

今年度より、イベント名称を「UIターン就農相談フェア」から和歌山県新規就農者支援サイト「AGRIわかやま」に変更した。

イベントの内容はこれまでと同様、県相談ブースをはじめJA、各市町、わかやま移住定住支援センターなどを含む、14団体16個の相談ブースを設け、県内外から39名の相談者が参加した。相談者からは「農地を借りたいがどうしたらよいか」、「栽培技術は何处で学べるのか」、「どのような補助金があるのか」などの質問が寄せられた。

また、新潟県から移住し就農支援センターの研修を経て、和歌山市でイチゴなどを栽培されている方を講師に招き、新規就農セミナーを開催した。参加者からは「県外から移住し、和歌山県で農業を始めるまでの具体的な流れがわかり良かった」「農業の楽しさが伝わった」などの声が聞かれた。

今年度は、同フェアをあと2回（11月29日、2月8日）JAビルで開催する。



相談ブース



新規就農セミナー

IX 経営支援課

1. 普及指導員資格試験に向けた研修を実施

7月3日、当課では令和7年度普及指導員資格試験に向け、受験者や次年度以降の受験予定者に対して研修を実施し15名が参加した。

まず、当課の堀田農業革新支援専門員から試験の問題構成等について説明した後、木村農業革新支援センター長から普及指導の理念や普及指導員の役割について講義を行った。

続いて前年度の試験合格者から、勉強法や受験に当たっての心構え等について紹介した後、論文記述問題について実際に演習を行った。

近年、ベテラン普及指導員の多くが定年退職を迎えており、若手普及指導員の育成が急務となっている。当課では試験合格に向け受験者へのバックアップを行っていく。



普及指導活動に関する講義

2. 新任普及職員研修を実施

7月17日、今年度に初めて普及組織に配属された職員を対象に、新任普及職員研修を実施し、新規採用職員3名を含む6名が出席した。

最初に、木村農業革新支援センター長から協同農業普及事業及び普及指導員の役割や実際の普及活動時の注意点等について説明した。

その後、事前に提出のあった資料を基に、自らの業務で困ったことや他の出席者に聞いたみたいことを受講者から発表し、参加者全員で意見交換を行った。

参加者からは、「業務外での普及指導対象との関わり方の参考になった」、「自分のほかにも同じような悩みがあることがわかり、気持ちが楽になった」などの感想が得られた。

次回は、同じ対象者に普及指導の演習を中心とした研修を実施する予定である。



全員で自らの経験や対応策を意見交換

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489